

[028]九州大学教育社会学研究集録表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/7325622>

出版情報：九州大学教育社会学研究集録. 28, 2024-09-15. Seminar of Educational Sociology
Department of Education, Graduate School of Human-Environment Studies Kyushu University
バージョン：
権利関係：



高大接続論からみた中国浙江省における大学入試改革の位相

—逆欠如理論を援用した中国における高大接続論の再審—

キーワード：高大接続，中国大学入試改革，逆欠如

教育システム専攻

張 小曉

1. 本論文の構成

序章 中国浙江省における大学入試改革と逆欠如理論

第1節 問題の所在

第2節 先行研究

第3節 本研究の課題

第4節 本研究の分析視点と論証方法

第1章 浙江省における「三位一体」入試改革

第1節 「素質教育」及び「2003 年度高校教育課程」の改訂

第2節 教育課程改革を背景に浙江省における「三位一体」入試

第3節 大学側の「三位一体」入試の実態

第4節 小括

第2章 浙江省における「高考」改革

第1節 浙江省における「高考」改革の方向性

第2節 「核心素養」及び「2017 年度高校教育課程」の改訂

第3節 大学教育改革における教育マネジメントの改善

第4節 小括

第3章 浙江省における「基礎分野学生募集」

第1節 浙江省における「基礎分野学生募集」の実際

第2節 浙江省における「基礎分野学生募集」における入学後の学生養成モデル

第3節 小括

第4章 中国浙江省と日本における高大接続の要素抽出

第1節 中国浙江省の高大接続の要素

第2節 日本の高大接続の要素

第3節 小括

終章

第1節 中国浙江省の高大接続の独自性

第2節 本研究の問題点と今後の課題

2. 本論文の概要

序章 中国浙江省における大学入試改革と逆欠如理論

1) 問題の所在：浙江省における大学入試改革の意味は何か

中国では、「一発勝負」の「高考」、激しい受験競争、高校教育と大学教育 2 つの異質的教育段階の衝突という社会背景のもとに、2010 年に、2020 年に向けた中国の教育改革に関わる全体構想を提言した「国家中長期教育改革・発展計画要綱(2010-2020 年)」が打ち出され、その中、「試験の分類化」、「総合的評価」、「多元的選抜」という方針が発表された。「要綱」に沿って、中国は大学入試改革を検討し始めている。そのうち、浙江省は、2011 年から、大学が事前に個別入学許可を出す「三位一体」入試の導入が進行し、2017 年から、浙江省を皮切りに「高考」改革が行われ、そして、2020 年から、浙江大学で「基礎分野学生募集」を先行的に実施することになった。浙江省では、高等教育の量的拡大が進行しつつも、大学以外的高等教育機関進学者が大学進学者より上回る傾向にあり、大学進学をめぐる受験競争が依然として厳しいと言える。積極的に大学入試改革を推進している浙江省では、教育システムのなか、この一連の大学入試改革の意味は何かという疑問が出てくるであろう。

2) 先行研究：浙江省における大学入試改革をめぐる実証研究

一連の大学入試改革がもたらされた高校教育への影響として、クラス選択制の導入、科目選択指導やキャリアプラン教育の実施などが挙げられ、また、大学教育への影響として、試験科目の条件の明示、新入生の学習状況や適応感などがそれぞれ実証調査によって論じられている。しかし、「要綱」では、「中等教育、高等教育の有機的に接続」という教育改革の目標も設定しており、大学入試改革によって高校教育と大学教育との関係をより適切なものにするために努力が行われると考えられる

ため、大学入試改革が中国の「高大接続」問題においての位置付けに関する議論が必要であろう。

3) 本研究の課題：「逆欠如的」観点としての浙江省における大学入試改革の意義は何か？

中国、台湾、韓国と日本を政策的に類似性の高いグループとして比較するアプローチは南部(2016)に見られる。東アジア諸国では、全国統一型学力テストの見直し、これ以外の多様な指標が考慮される選抜方法の導入という東アジア諸国における高大接続の共通性が見られる。共通性が確認できる一方、「欧米または、東アジアの日本を基準としてその到達度が斟酌される」ことが、これまでの中国における外国比較視点から見た大学入試改革の傾向になると思われる。東アジアという共通性の高い社会との比較では、ある「共通性」を認める上で、「共通性」のなかの「独自性」が見えられないという「対象との距離感」；また、無自覚に外国を基準として外国の現実や理論を内面化する可能性があるという「理論との距離感」に留意しなければならない。(片山・中村, 2021: pp.12-15)。そこで、本稿では、中国の高大接続の現実が日本の高大接続から「遅れている/欠如している」と判断するのではなく、日本の現実からの理論の間に距離感を保ち、「大学入試改革を中心に高大接続の見直し・改善」を「共通性」で設定することで、「共通性」のなかの中国の「独自性」への理解を推し進める。

上記の考えの理論的枠組みとしては、園田(1991, 2005)の「逆欠如理論」や「逆欠如的比較」に関する主張が取り上げられる。「逆欠如理論」(園田, 1991: pp.16-17)とは、欠如理論とは反対に、「日本にあるものは外国にもあるはずだ」という外国観察の方法であり、「逆欠如比較」(園田, 2015 pp.10-12)は、出発点を日本においた「日本に固有と思われるものは世界にあるか」という新たな方法論に基づく文化比較と定義されている。園田(1991)の「逆欠如理論」は、優劣をつける「欠如理論」の反論に重点を置くと思われる一方、園田(2015)の「逆欠如的比較」は、「日本に固有と思われる現象」の「固有性」を中心に注目し、「欠如」的議論や「欠如」的比較が存在する上で展開されることに限定しない。また、園田(2015)の「逆欠如的比較」は、研究対象の特徴をより明確に把握できるために、対象の代表的な要素を分解する方法が導入される。上記の「逆欠如理論」・「逆欠如的比較」の概念やあり方に基づいて考えてみると、日本の高大接続論を基準としてその到達度が斟酌されるのではなく、中国の高大接続の構造をいくつかの要素に分解し、比較モデ

ルを抽出し、日本の高大接続論を比較対象として、日本と同様な「高大接続」における課題が発見されなかったら、中国の「独自性」を考えられ、中国の高大接続論を再検討できるであろう。

4) 本研究の分析視点と論証方法

本研究では、上記の「逆欠如理論」・「逆欠如的比較」を援用して中国の高大接続論を再審する。ところで、中国各省は独自に入試改革が行われ、中国全体としての議論が難しい。そこで、比較的に教育水準が高いとされる浙江省のもとに分析を試みる。分析に際して、まず、浙江省では、「三位一体入試」、「高考」、「基礎分野学生募集」一連の大学入試改革が高校教育と大学教育の中でいかに位置付けているかを概観する。次に、一連の大学入試改革によって影響を及ぼされている浙江省の高大接続の構造を明らかにし、浙江省の高大接続の構造を代表できる構成要素に分解して比較モデルを抽出する。最後に、日本の高大接続論を比較対象として、浙江省の「独自性」を再発見することで、中国の高大接続を窺い知る。本稿では、主に文献研究の方法を用いる。中国政府または地方政府が公布した関連文書を利用するとともに、新聞記事を参考にする。

第1章 浙江省における「三位一体」入試改革

第1章では、浙江省における「三位一体」入試について分析を試みた。

市場経済化が進む中で、教育発展の重要性が認識され、高等教育の進学率向上の目標が設定するとともに初等中等教育にも波及するという社会背景では、「素質教育」という教育理念が登場し、90年代以降の教育政策上の最も重要キーワードとして強調されてきた。「素質教育」とは、国民の資質の向上と、学生の創造的精神と実践的能力の育成に重点をおいて、「徳育・知育・体育・美育・労働意識」等の面で全面的に発達した人間を育成し、全ての教育段階で実施する教育である。教育現場に「素質教育」を取り入れるため、高校教育課程改革の改訂が行われ、改訂点としては、国が設定する教育課程、地方・学校ごとに設定する科目、選択履修制の充実という課程設置の多様化と、研究性活動や社会実践活動の積極的な実施が挙げられる。「素質教育」の要求に応えるため、高校教育課程改革に基づき、浙江省は「三位一体」入試といった新しい大学入試制度を導入し、全国統一型学力テストの「高考」；高校卒業に相応しい学力が備わっているかを確認するための「高校学業水準試験」；大学側の裁量で実施する筆記試験や面接試験等の

「独自考査」3つの資料を利用し、一定の比例で換算した総合得点によって行われる「三位一体」入試における「高考」の成績の割合が原則として、50%以上と規定され、各大学が自らのニーズに応じて、「高校学業水準試験」と「独自試験」の比重を調整できる。「三位一体」入試の実施最初は、「独自考査」の比重を高める傾向にあったが、近年、多くの大学は「高考」の比重を高め、「高考」重視の傾向が見られる。また、「三位一体」入試の実施大学も徐々に減少し始めたことがわかる。「三位一体」入試は、多面的評価を目指し、選抜の判定資料を複数用いると確認できたが、それらの比重の割合も偏っており、依然として「高考」重視の傾向にあることや大学側の裁量できる範囲の縮減が示唆される。

第2章 浙江省における「高考」入試改革

中国では、一発勝負の試験で受験生に過度な負担を与え、教育内容が試験勉強に偏るといった「高考」の弊害が長らく指摘されてきた。「高考」が抱える課題を指摘する声を受け、2014年、中国国務院が「高考」改革の意見を公布した。改革のポイントとして、複数回受験可能；「高考」と「高校学業水準試験」の成績を統一すること；高校における「総合素質評価」（高校調査書に該当）を大学入学者選抜の基準とする総合的評価システムの検討；文系理系の区別をなくすこと等が挙げられ、そして、「知識」を考査することから、「能力」を考査することへという評価指針も提出された。浙江省における「高考」改革の方向性としては、必須科目の国語・数学・外国語と選択科目の歴史・政治・地理・物理・化学・生物・技術7科目を設定し、選択科目から任意で3科目を選択することができるようになり、選択科目と外国語が2回受験可能としている。評価方法としては、必須科目が素点、選択科目がパーセンタイル順位による段階評価としている。ただし、複数回実施の「高考」制度は、試験勉強の負担軽減を狙う一方、さらなる負荷や段階区分の理論的仕組みの科学性の欠如といった課題も指摘されている。「高校学業水準試験」と「総合素質評価」を選抜メカニズムに取り入れる措置として、「高校学業水準試験」が70点満点で必修問題のみ、「高考」が「高校学業水準試験」の70点+30点の追加問題によって構成され、「高考」は70%の部分が「基礎的知識」を考査すると言える。一方、「総合素質評価」は参考程度の利用に止まっている。

なお、中国では、「受験教育」を重視する文化が深く根付いており、「素質教育」の効果的な実施が滞って進展が微々たるものであった結果、「立德樹人」（徳を育み、人

をつくる）、「徳育を前面に出し、徳育を通じて他の面の発達を促す」という教育に対する考え方が提唱された。また、キー・コンピテンシーの国際的能力観をめぐる議論の下で、「素質教育」のもう一つの新たな転機が訪れ、キー・コンピテンシーのローカル化としての「核心素養」が提唱された。「核心素養」が議論されるなか、同枠組みに基づく「2017年度高等学校課程」が公表され、高校教育改革が行われた。改訂点として、履修科目の選択性の増加；選択科目の単位数の増加；各科目の効果や位置付けの明確化などが挙げられる。また、各教科における「核心素養」の具体的な目標や評価基準の明記も挙げられる。

「高考」改革に伴い、大学教育は、学位授与制度の整備、学習・自主学習の確保、読書量の増加、教育内容や水準を確保できる体系的な教育課程の編成、実習・実践活動の留意事項や進め方に係る制度の形成、授業科目の評価基準・卒業論文の審査項目の合理的策定、副専攻履修・ダブルディグリープログラムなどの推進を通して、「教育課程編成・実施」や「卒業認定学位・授与」の厳格化が求められ、質的問題が重視されるようになってきた。また、「高考」改革により、大学は必要な受験科目を指定できるアラカルト方式を採用でき、志願者全員を成績順に並べ、得点の上位者から出願先を決めていくことを通して、入学者受け入れ方針に関する自主権の拡大も求められる。一連の大学教育に関するポリシーによって、大学教育質的向上が徐々に重視されるようになった。

第3章 浙江省における「基礎分野学生募集」改革

「基礎分野学生募集」は、新たな選抜方法と大学入学後の教育を一体的に組み合わせる試みで、総合的な資質が優れた学生を受け入れ、特別な枠で養成することにより、国に必要な人材を送り出すことが目指されている。浙江省における「基礎分野学生募集」のあり方については、総合的選抜を目指しているが、10年間実施されてきた「三位一体」入試の可否判定方法を引き継ぎ、特に「高考」の成績が重視され、「総合素質評価」の利用方式が不明確だということがわかる。「基礎分野学生募集」の対応として、大学教育では、特別な養成モデルが設けられ、特別カレッジの編成や大学院教育との連携が挙げられる。ただし、「基礎分野学生募集」は極めて少数の高学力層を対象とし、国の人材育成を目指しているため、選抜と大学教育における養成を結びつけているものの、高校教育との結び付けが徳育重視に限られていると考えられる。

第4章 中国浙江省と日本における高大接続の要素抽

出

第1～3章各大学入試制度改革をめぐる議論を踏まえ、浙江省における「高大接続」の要素については、まず、教育改革の特徴として、①「実態対処としての教育改革」が挙げられる。「三位一体」入試は、「素質教育」を目指す高校教育改革の一環として導入された；「高考」改革の科目選択や複数回受験可能の対応として「核心素養」という新しい教育理念が議論され、それに基づく高校教育課程の改訂が公表された；「高考」改革の評価指針に対応して大学教育の質的重視改革も進められた。また「基礎分野学生募集」の特徴に対応し、選抜制度と入学後育成制度が設計された。次に、選抜制度の特徴として、②「全国統一型学力テストの『高考』重視の選抜制度」が挙げられる。「素質教育」の実施効果を検証する「三位一体」入試も高学力層を対象とした個別選抜の「基礎分野学生募集」も「高考」の成績を重視せざるを得ず、国家的な統一性や標準性が重視されている。さらに、教育理念の特徴として、③「全面発達観の教育理念への強調」が挙げられる。「素質教育」から「立德樹人」や「核心素養」へという教育理念の変容が見られるが、依然として「素質教育」の枠組みに依存しており、全面的に発達した人材の養成が求められている教育理念が常に重視されている。上記の3つの要素に基づいて比較モデルとして、それぞれの要素に対応し、荒井（2011）大塚（2020）を主要参考文献として、日本における「高大接続」の要素を、教育改革の特徴の面から、学生個人の中で、高校の教育課程と大学教育課程2つ異質な教育課程をいかにつなげるかといった「学力的接続」を重要課題として議論されているという①『「学力的接続」を重要課題としての教育改革」に分解した；選抜制度の特徴の面から、共通1次試験制度の反動、偏差値による管理受験への反発という国民感情や、日本の私立大学の経営による非学力選抜の受容に寛容になったという②「非学力選抜の受容に寛容になった選抜制度」に分解した；教育理念の面から、「原理的なところ」に相当する概念として議論されつつあるという③『「学力の3要素」の教育理念への強調」に分解した。

終章 中国浙江省の高大接続の独自性

前章で、浙江省における「高大接続」は、教育改革、選抜制度、教育理念の特徴3つの面から要素を分解し、そして、それぞれの要素に対応し、日本における「高大接続」の要素の抽出を試みた。そこで、本章では、前章でまとめた要素に基づいた比較モデルをもとに、日本の

高大接続論を比較対象として、中国浙江省の特殊事情を窺うことで、中国浙江省の高大接続を再発見することを試みる。

まず、教育改革の特徴の面から、浙江省における「高大接続」の独自性として、大学入試において、高校教育段階の到達度がより重視され、そして、各教科の基礎的能力をテストしようとする一方、学生の評価や育成が徐々に大学に委ねられている傾向にあると考えられる。ただし、「高校教育と大学教育の共通基盤を確立する」といった中央政府の目標と、「大学入試における高校教育段階への重視や各教科の基礎的能力への重視」といった浙江省では実際に採られている教育改革に関する一連の施策、両者の間に齟齬が生じていると考えられる；次に、選抜制度の特徴の面から、浙江省における選抜制度は、国家的な統一性や標準性が担保された「高考」が重視されており、「高考」改革の制度の不備をきっかけに、国民ムードに変化が生じたものの、選抜制度に非学力要素を導入することが可能である私立教育機関の認知度の低さや学費負担の大きさ、そして、トランスナショナル高等教育機関への進学や海外留学が優先されているため、選抜制度に非学力要素の導入への認識を高めることや多様な選抜制度の導入が困難な状況にあると考えられる；さらに、教育理念の特徴の面から、ローカルな「立德樹人」とグローバルな「核心素養」は併存しており、「立德樹人」を支える「教育は国民が国家の発展のために支援できるようにするもの」という価値観と、「核心素養」を支える「教育は個人の向上と発展のためのもの」という価値観が異なると思われるため、教育現場に混乱をもたらす可能性があると考えられる。また、グローバル化の波が遅かれ早かれ到来し、コンピテンシーに基づく教育への重視が喚起されている中で、次の課題は、現在の教育理念のどの部分を保護し、どの部分を国際化に合わせて変革するということになると考えられる。

5) 主要参考文献

- 片山悠樹・中村高康, 2021, 「『アジア』という視点から見る教育—特集にあたって—」『教育学研究』, 108巻 pp. 7-17.
- 荒井克弘, 2011, 「高大接続の日本的構造」『高等教育研究』14(0), pp.7-21.
- 南部広孝, 2016, 『アジアの大学・大学院入学者選抜制度の比較：中国・台湾・韓国・日本』東信堂.
- 大塚雄作, 2020, 「教育で育てるべき力・試験で測るべき力—『学力の3要素』をどう捉えるか」『科学』

第4号, pp. 334-341.

園田英弘, 1991, 「逆欠如理論」『教育社会学研究』, 第49集, pp. 9-33.

園田英弘編著, 2005, 『逆欠如の日本生活文化—日本にあるものは世界にあるか』 思文閣.

中華人民共和國國務院, 2011, 「国家中长期教育改革和
发展规划纲要(2010-2020年)」

<http://www.scio.gov.cn/xwfbh/xwbfbh/wqfbh/2014>

(最終閲覧日: 2024/07/18) .